

米軍横田基地監視レポート

by 羽村平和委員会 2023年2月

YOKOTAJOHOのブログ その2 2020年～
yokotajohoのブログ 2010年～2019年



左写真はDVIDSより

2月2日赤旗

陸自300人米軍機から降下

静岡・東富士訓練強行

陸上自衛隊東富士演習場（静岡県御殿場、

裾野両市と小山町）で

パラスチート降下部隊

の第1空挺（くつてい）

団（千葉・習志野駐屯

地）が、1月31日～2

月2日の日程で米空軍

輸送機を使った大規模

な降下訓練を始めまし

た。地元の平和団体は

「使用協定に違反する

日米一体の訓練で、日

本を戦争に巻き込むも

の」と批判しています。

米国防総省映像情報

配信サービス（DVIDS）の写真・ニュー

スによると初日の31

日、在日米軍横田基地

（東京都多摩地域）配

備と米アーカンソー州

からの飛来機を含むC

130J輸送機9機から

第1空挺団の隊員約

300人がパラスチー

ト降下し、物資投下な

ども行いました。

防衛省・自衛隊から

の横田基地周辺自治体

や静岡県御殿場市への

情報提供・通報による

と、3日間で空挺団員

約500人、米空軍C
130J輸送機最大15
機が参加するとしてい
ます。

横田基地の米空軍C

130輸送機からの第
1空挺団の降下訓練は
2018年11月から各
地の演習場で行われ16
回目。東富士演習場で
の訓練は4回目です。
御殿場平和委員会の
渡邊希一事務局長は
「米軍と自衛隊が同一
の場所、同一の時間に
訓練をしないという東
富士演習場の使用協定
の『二元管理』の原則
を全く無視しており、
認められません。日米
一体の戦争準備の訓練
であり、大軍拡と戦争
をできる国へと進んで
いることに怒りを感じ
ます」と批判していま
す。

2月2日

東富士演習場から横田基地に帰ってきた9機



2月4日 米空軍三沢基地の
戦闘機 F-16 が2機飛来



2月24日 米海軍の電子戦戦闘攻撃機
EA-18G が2機飛来



横田基地所属のオスプレイ CV-22B は現在6機

2018年4月の横田基地への初飛来以降、民間空港などへの緊急着陸は5回も繰り返しています。

15日の飛行再開後は、横田基地周辺（瑞穂町、青梅市、あきる野市、福生市、羽村市、昭島市など）の上空を飛び回り、神奈川県、埼玉県、群馬県、山梨県など関東地域を飛び回っています。

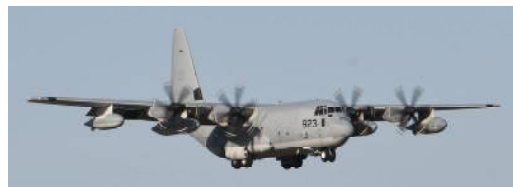
米海軍の海上哨戒機P-8A がタッチアンドゴー訓練

2月1日6回、3日5回、22日8回、24日8回などタッチアンドゴーを繰り返しました。

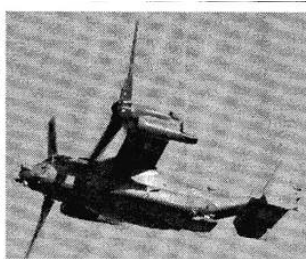


米海兵隊岩国基地の空中給油機 KC-130J がタッチアンドゴー訓練

2月1日19時頃から14回、2月17日18時半から12回、タッチアンドゴーを繰り返しました。



飛行を再開した米空軍 CV-22オスプレイ15日、東京・横田基地（羽村平和委員会提供）



クラッチの不具合が問題になっているオス

プレイについて、米軍が機体を製造しているベル・ボーイング社に対して関係部品の再設計を発注していたことが、26日までにわかりました。

オスプレイのクラッチの不具合をめぐって米軍は今年3月、一定の使用時間を経過した部品の交換措置を発表しましたが、ベル・ボー

イング社が再設計を受注したのは発表直前の1月18日。部品交換は暫定的な措置で、不具合の解決に抜本的な設計変更が必要となる深刻な欠陥であることが裏付けました。

再設計の対象はオスプレイの垂直離着陸用の回転翼兼推進用のプロペラ（プロップローター）のギアボックス内にあるエンジンの動力を伝達する入力シャフトとクラッチの二つの部品です。

オスプレイの開発を進めてきた米海軍が昨年12月に業者の募集を開始。再設計ができる

唯一の事業者としてベル・ボーイング社が2

027会計年度までの事業期間に1億7万2

700ドル（約1億76

0万円）で受注しま

した。

オスプレイは、飛行

中、クラッチが離れて

滑るなどローターに動

力が伝わらない状態に

陥り、クラッチを結合

するとエンジンの動力

を伝える駆動系統に衝

撃が生じて破損する危

険がある不具合が多発

していました。

横田基地（東京都）

の監視を続ける羽村平

和委員会によると、同

基地の米空軍CV-22オ

スプレイは4日から飛

行を停止していましたが

15日に再開。山梨、

群馬県や青森県の三

沢基地との間で飛行を

繰り返しています。

米軍、部品再設計発注

2月27日 赤旗

航空自衛隊員と米空軍横田基地兵士が米海兵隊の着陸誘導システム 実演を見学

2月7日から、米海兵隊 MACS4 (Marine Air Control Squadron 4) による車載のレーダーシステムを使った ATNAVICS (Air Traffic Navigation, integration and coordination system)「飛行誘導集中調整システム？」の実演を、日本の航空自衛隊員と米軍横田基地兵士が見学していました。このシステムは航空管制システムのない場所への着陸を可能にするもので、RW36側への横田基地所属の C-130J-30 の着陸誘導を実演していたようです。高度レーダーシステム搭載の車両 Highly Mobile, self-contained, tactical Airport Surveillance Radar (ASR) and Precision Approach Radar (PAR) system は2月15日まで、滑走路南側近くに停車していました。この車両は HAMVEE (High Mobility Multipurpose Wheeled Vehicle) を改造したものです。

左側のテントは実演・見学一行の控え用で、右側がレーダーシステムを搭載した車両です。

なお、横田基地では TACAN (tactical air navigation system 戦術航空システム。軍用の極超短波 (UHF) による方位・距離測定装置) を可搬型の機器を使って、着陸誘導する訓練はしていたようです。

